



金井秀行

<ラスト現場報告>

その1・バカは風邪ひかない？

例年になくインフルエンザが蔓延していた2月のある日。1年生の某クラスから戻ったO氏が学年の島の同僚に言った。「今、B組だったんだけど全員出席なんだ。『おお、欠席ゼロかい！』と言ったらさ、一番前の男子が『だって先生、俺達バカだもん』とすかさず言ったんだよ。そういうことを自分から言っちゃうかねえ、と呆れたんだけど…」

バカは風邪をひかないということか。O氏はそれ以上言わなかったし、周囲も笑って聞き流した。

チャイムが鳴って、次の授業が始まった。2年生のクラスに出た私は話さずにはいらなかった。

「さっき、こんな話を聞いた。みんなどう思う？俺だったらこう言ってやりたいね。何言ってるんだ、健康管理も能力の1つだ。大事な時期に風邪をひく奴の方がよっぽどどうかしている。それに、バカだ利口だなんて簡単に決めつけられないよ。みんなは『男はつらいよ』なんて映画知らないかなあ。そのシリーズに、葛飾立志篇ってのがあるんだ。主人公の寅さんが知り合いの墓参りに行った時に、そこの住職にぼやく。『俺はバカだから、人のウソが見抜けない』。すると坊さんが言う。『いや、それは違う。己の愚かさに気づいた人は、もはや愚かとは言わない。あなたは賢い人です。それが己を知るということです』。

ま、興味のある人は映画を観てください。

その2・「ルークス数列」発見

修学旅行などで案内者が皆を連れて、あ

ちこち説明する。すると、気の合う者同士が数人で勝手にまとまることがある。そして一斉に説明を聞く場面には居ない。大部分が立ち去ったあと、遅れてブラブラやって来て「これは何だろう」とダベリながら紹介文などを読んでいる。「なんたる無駄か！」かつて私はそんな彼らを苦々しく思っていた。

しかしこの齢になって考え直した。「待てよ。そっちの方が本当の学びだったかもしれない」と。少なくとも「学んで思わざれば即ちくらく・・・」という論語の教えにはピタリ当てはまりそうだ。とっていた折も折、3年生の教材の中で次の問題に出くわした。

$x+y=1$ $xy=-1$ のとき 次の式の値を求めよ。

- ① x^2+y^2 ② x^3+y^3 ③ $y/x+x/y$

いつもなら公式を使って結果を出して終りだ。しかし、今回は x^4+y^4 x^5+y^5 と続けてやってみようという気になった。ヒョットしたら、そこに何か法則性があるのかもしれない。あたり、だった。

$\alpha^n=x^n+y^n$ とおき、 α に 1、2、3…を代入した数を並べてみると、1、3、4、7、11…と続く。調べてみると、これにはルークス数列という名がついていた。何十年もこの稼業をやってきて、こういう類推を試みなかったということが我ながら信じられない。してみると、無味乾燥な受験問題の中には未知のお宝が沢山隠されている。人の行く裏に道あり花の山、とはよく言ったものだ。